

令和7年度 港北地域学

第2回 まちと生きる本屋のカタチ

実施報告

◆ 講座概要

日時	令和8年1月25日（日）10：00～12：00
会場	港北区役所（大豆戸町26-1）
ねらい	・「本屋」という身近な場所から地域の魅力を発見する ・自分の視点でテーマを選び、“言葉にする楽しさ”を体験する ・グループで共有し、多様な視点を知る
参加者	32人 <内訳> 30代 3人、40代 5人、50代 8人、60代 12人、70代以上 4人

- ◆ 当日のプログラム ● 講演 中岡祐介氏（株）三輪舎代表、本屋・生活綴方主宰
● ワークショップ「文集をつくってみよう（企画だけ）」
<テーマ> 1. 先生 2. 引っ越し 3. わが街の好きな場所
4. アルバイト 5. ささいな自慢話

◆ 講座の様子

講演とワークショップを組み合わせ、参加者が主体的に関われる構成とした。はじめに、70年以上にわたり地域とともに歩んできた「石堂書店」の事例として、中岡氏より経営継続に向けた試行錯誤について率直な話を伺い、地域における書店の役割を考える機会となった。続いて、「生活綴方」において実際に店番をしている人から、店番の立場で見た本屋の魅力を紹介いただき、あわせて参加者から受講の感想を共有した。受講者目線の声を聞くことができ、会場の雰囲気や和らいだ。

ワークショップ「文集をつくってみよう（企画だけ）」では、テーマを選ぶ過程から活発な意見交換が行われ、参加者が「地域のために自分にできること」を俯瞰して考える時間にもつながった。



◆ 参加者アンケートより

- ・講演と「話す／表現する」ワークショップが組み合わさった内容で良かった。
- ・表現することの重要性について改めて考えるきっかけになった。
- ・自分の考えていることや経験を人に話したり書いたりということが楽しいと感じられたので人との会話が楽しめるきっかけになりました。
- ・街を見る視点が増えたので、まずは周りを見渡してみたいと思います。
- ・今、読書会に参加していますが、本との他のかかわり方もあるのかもしれないと思いました。

